

第三期三鷹市障がい者（児）計画

課題振り返り資料

第三期三鷹市障がい者（児）計画における課題

- (1) 障がいに対する理解の拡大
- (2) 安心して暮らせる地域づくり
- (3) 障がいのある人の自己決定の尊重と相談支援機能の強化・充実
- (4) 生活支援と家族支援の充実
- (5) 就労を含めた社会参加の推進
- (6) 一人ひとりの状況に応じた切れ目のないサポートの提供

三鷹市の取組と実績（抜粋）

障がいへの理解促進

みたかスポーツフェスティバルや心のバリアフリー推進事業等で地域住民が関わるきっかけづくりを進め、障がいへの理解を促進するための活動を積極的に行いました。

引き続き、障がいのある方も安心して参加できる環境づくりやより多くの人に参加し、障がいについての理解が深まるよう、積極的な周知に取り組んでいきます。

相互理解と交流の推進

地域ケアネットワーク等を活用し、地域の中で障がいのある人と共に過ごし、時間を共有することで支え合う意識づくりに取り組みました。障がいについての講座や勉強会等を積極的に行い、相互理解と交流を進めました。

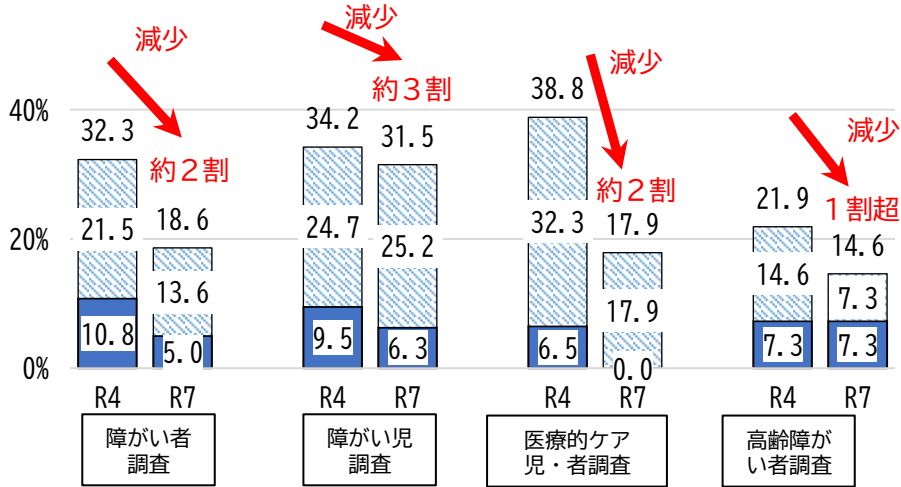
各地域ケアネットワークの地域向け講座や委員向け学習会で障がいをテーマとして継続的に取り上げるとともに、障がい者支援事業者との交流の機会を拡充し、相互理解と連携を図ります。

関連データ

障がい者等の生活と福祉実態調査

この１年の間に障がいがあることで差別をうけたことがあったか

60%



- 差別を受けたことがあった割合は、設問を設けた全調査で減少し、差別の解消や権利擁護が進んでいると考えられる。
- 一方で、障がい児調査では、差別をうけたことがある割合は31.5%で、他の調査と比べて最も高くなっており、前回調査からの減少幅も2.7ポイントと小さくなっている。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、障がいの有無に関わらず、お互いに理解し、認め合う取組を行ってきました。
- 障がいがあることで差別をうけたことがある割合は、どの調査においても下がっています。
- 引き続き、障がい者への差別の解消を目指して、障がいに対する理解の拡大に取り組めます。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

養成講座等の実施・福祉の仕事についての周知啓発

ガイドヘルパー養成研修、地域ボランティアの養成講座等の実施や福祉の仕事についての周知啓発に努めました。
毎年知的障がいガイドヘルパーの養成研修及び精神障がいホームヘルプスキルアップ講座を行っています。また、障がい福祉に関する仕事の周知・啓発を行うため、中学２年生に向けたパンフレットを作成し、配布しました。

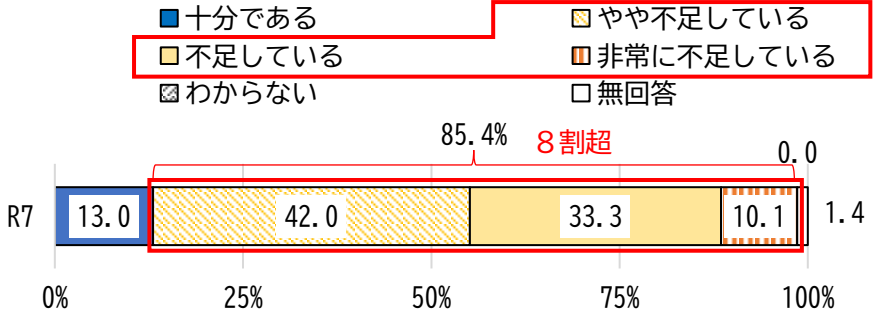
地域の関係機関との連携

三鷹市社会福祉協議会で実施している福祉のしごと相談・面接会に障がい分野の事業所も参加しているため、相談会実施の際には、社協と連携して障害福祉サービス事業者への周知を図りました。
多くの障害福祉サービス事業者が参加できるよう、引き続き社協と連携しながら取り組んでいきます。

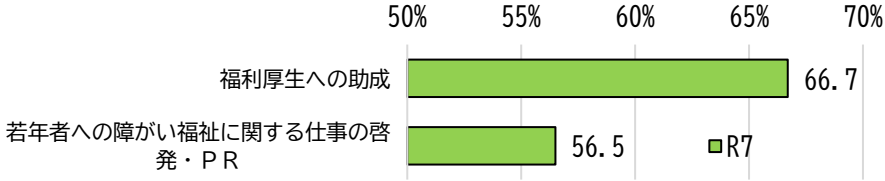
関連データ

障がい者（児）計画策定のための事業所調査

職員の充足状況



人材の確保・定着・育成のために行政に取り組んでほしいこと（上位）



- 職員の充足状況が十分な割合は13.0%に留まっており、8割を超える事業所で職員が不足している。
- 人材の確保・定着・育成のために行政に取り組んでほしいこととして、「福利厚生への助成」や「若年者の障がい福祉に関する仕事の啓発・PR」などが挙がっている。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、福祉の仕事についての周知啓発や「福祉のしごと相談・面接会」との連携等を通して福祉人材の確保に努めました。
- 安定したサービスの提供に向けて、職員の充足状況の改善を目指します。
- 関連機関と連携しながら、人材確保・人材のマッチング支援などについて幅広い観点で検討し、取組の強化と拡充を図ります。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

日ごろの備えや避難計画等についての事前準備の啓発

災害発生に備え、三鷹警察署や三鷹消防署をはじめとした避難を支援する機関等への名簿及び避難計画の提供を進め、日頃からの地域のつながりづくりや、避難支援体制の整備を図りました。

また、市内の避難支援等関係者を対象に研修会を実施し、日常的な名簿の活用等について周知・啓発を行いました。今後、個別避難計画を作成していく中で、新たな活用方法及び地域支援者や避難支援等関係者の避難支援の体制づくりを検討し、避難支援等関係者向けの研修会などで情報共有しながら避難支援に活かしていきます。

在宅人工呼吸器使用者の災害時個別支援計画の作成

移動等の避難行動が困難である等の特性がある在宅人工呼吸器使用者の災害時個別支援計画を、東京都多摩府中保健所等と連携して作成しました。

【令和7年度実績】

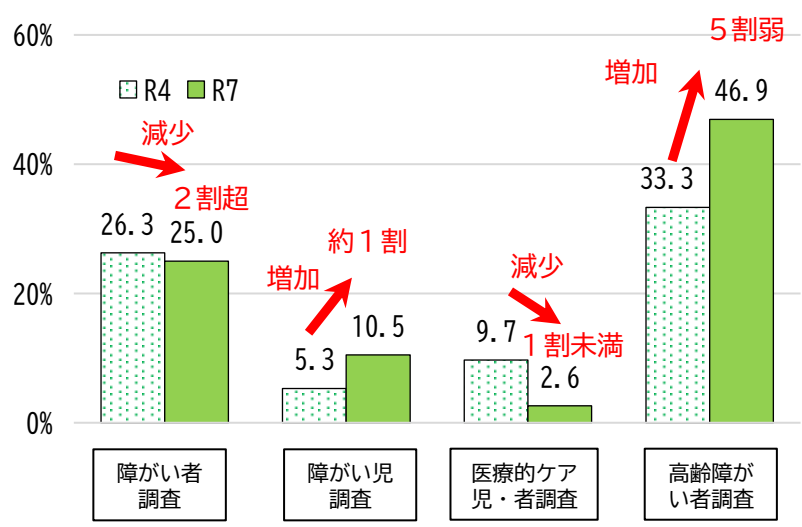
- ・新規5件
- ・更新10件

毎年在宅人工呼吸器の使用者が増加している状況であり、計画作成を依頼している地域の訪問看護事業者及び支援者との情報共有や連携をどう深めていくかが課題となっています。

関連データ

障がい者等の生活と福祉実態調査

災害に備えて「特に準備していない」割合



- 障がい児調査、高齢障がい者調査では、前回調査と比べて、災害に備えて「特に準備していない」割合が増加している。
- 特に高齢障がい者調査では、5割弱が災害に備えて準備していない。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、災害時に避難を支援する機関や関係者への支援とともに、災害時個別支援計画の作成などを通して避難行動が難しい人への支援も行ってきました。
- 一方で、災害に備えて特に準備をしていない障がいのある人は一定数おり、特に高齢障がい者に多いと考えられます。
- 障がいのある人やその家族が災害に備えることができるよう、事前準備の講習会実施やガイドラインの整備などを検討します。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

障がい特性に応じた情報提供

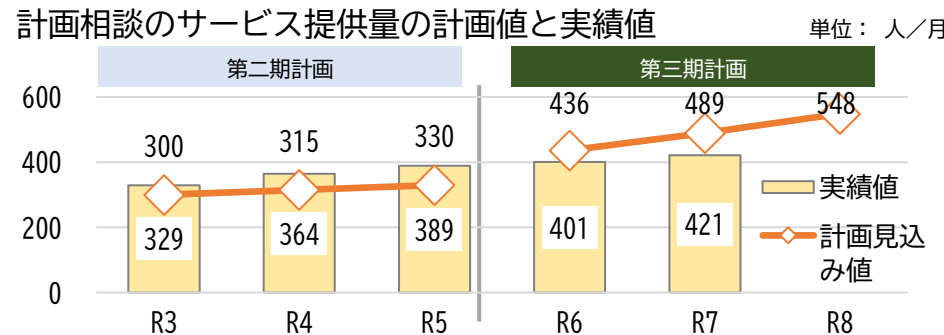
福祉総合案内の機能の充実を図るとともに、市職員が研修やハンドブック等で障がい特性や窓口での対応方法等を学ぶことにより、障がい特性に応じた情報提供ができるよう努めました。

だれもが気軽に相談できる「身近な窓口」の周知

障がい者相談支援センターぽっぷや障がい者自立支援センターゆー・あい等の、まず「受け止める」窓口としてだれもが気軽に相談できる「身近な窓口」を周知しました。

相談内容や相談者の状況に応じた相談窓口の充実

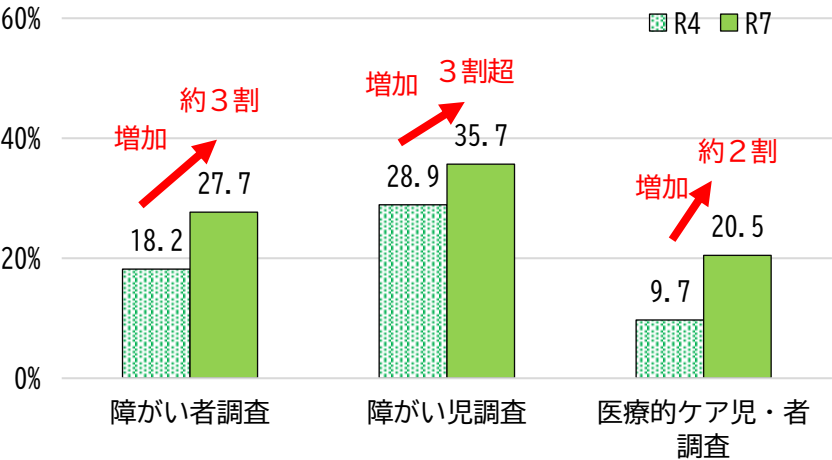
相談内容や相談者の状況に応じて、相談窓口や来所、訪問等の対応方法が選択できるように相談窓口の充実に努めました。



関連データ

障がい者等の生活と福祉実態調査

どこ（誰）に相談したらよいのかわからない割合



- 障がい者調査、障がい児調査、医療的ケア児・者調査では、相談について困ることとして、「どこ（誰）に相談したらよいのかわからない」を挙げる割合が増加している。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、障がい特性に応じた情報提供をはじめとして、相談窓口の量と質の両面における充実に努めてきました。
- 一方で、どこ（誰）に相談したらよいのかわからない割合は増加しており、計画相談のサービス提供量を見ると、計画値に対して実績値が低くなっています。
- 引き続き、相談支援の充実に取り組むとともに、相談先の周知・案内に関する取組を拡充します。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

地域生活支援拠点機能の充実にに向けた整備

障がいのある人が、地域で自分らしく安心して暮らし続けるために必要な支援を地域の支援機関等が連携して提供する地域生活支援拠点機能の充実にに向けた整備を進めました。

地域生活支援拠点連絡会を年６回実施し、情報共有・ケース検討・支援方針検討を行った。

「子育て支援プログラム」を活用した、療育の視点を生かした子育て支援

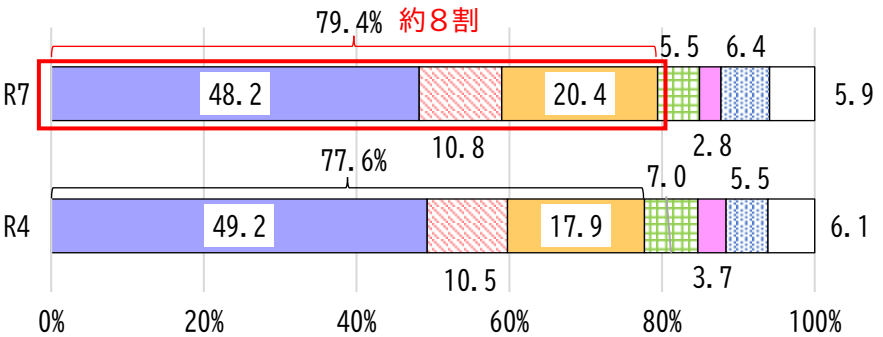
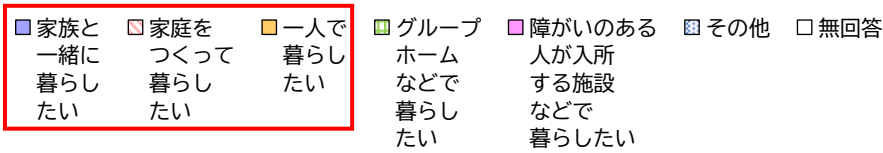
総合保健センターと子ども発達支援センターの連携により確立した「子育て支援プログラム（こいぬ・こねこプログラム）」を活用し、療育の視点を生かした子育て支援を実施しました。

障がいがあってもなくても、親子で一緒に楽しむ経験から子育てに自信をもって向かうための保護者支援を行いました。

関連データ

障がい者調査（障がい者等の生活と福祉実態調査）

今後、どのような暮らしをしたいか



- 障がい者調査では、今後希望する暮らしについて、在宅での暮らしを希望する割合は79.4%となっており、前回調査（77.6%）から1.8ポイント増加した。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、障がいのある人が地域で自分らしく安心して暮らし続けられるよう、地域生活を支える取組を進めてきました。また、「子育て支援プログラム」をはじめとする家族支援も行っています。
- 障がい者調査によると、在宅での暮らしを希望する割合は約8割です。
- 在宅での暮らしを希望する人が希望する暮らしを送れるよう、引き続き支援します。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

施設におけるバリアフリー化の推進

道路、公園、建築物等の施設について、新設や大規模な改修が行われる施設に加え、既存の施設においてもバリアフリー化を進めました。
引き続き、各施設管理者における特定事業の進捗管理等により、生活関連施設や生活関連経路等のバリアフリー化を促進します。

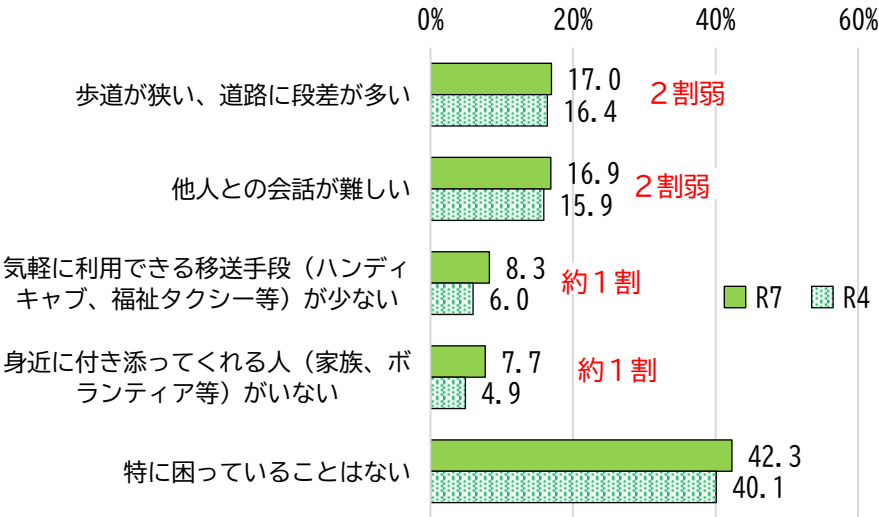
ガイドヘルパーの派遣

ガイドヘルパーの派遣等を通じて、地域での活動に参加しやすい環境整備を図りました。
知的障がい者の移動支援に係るガイドヘルパー養成講座を実施しました。
ガイドヘルパーの担い手不足が顕著であり、養成講座の在り方や報酬の見直し等の検討が必要です。

関連データ

高齢障がい者調査（障がい者等の生活と福祉実態調査）

外出時などに困ること（抜粋）



- 外出時に「歩道が狭い、道路に段差が多い」ことで困る割合は2割弱で、前回調査時とほぼ変わらない。
- 「他人との会話が難しい」「身近に付き添ってくれる人がいない」など公道等の整備だけでは解決できない課題も含まれている。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、市の施設や道路等のバリアフリー化を推進し、ガイドヘルパーの派遣をはじめとして、コミュニティバスの運行や福祉タクシー券の配布など、多様な手段による移動支援の充実を図ってきました。
- 引き続き、まちのハード・ソフトの両面からのバリアフリー化および移動手段の確保に取り組めます。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

多様な雇用・就業機会の確保

「障がい者就労支援センターかけはし」を、市内の就労支援ネットワークの拠点として位置づけ、ハローワーク、就労支援事業所等との連携のもと、多様な雇用・就業機会の確保に努めました。

就労の準備段階やニーズに合わせ、就労セミナーや、出張講座を実施しました。就労後も職場定着、生活支援について関係機関と連携を取りながら支援しました。

また、短時間就労に関して、ニーズ等の把握をするためのアンケート調査を基に、福祉事業所と市内企業を結びつける取組を行いました。

企業側と福祉側の相互のネットワークの構築

企業等へ積極的に働きかけるだけでなく、企業側と福祉側の相互のネットワークの構築や顔が見える関係づくりを進めました。

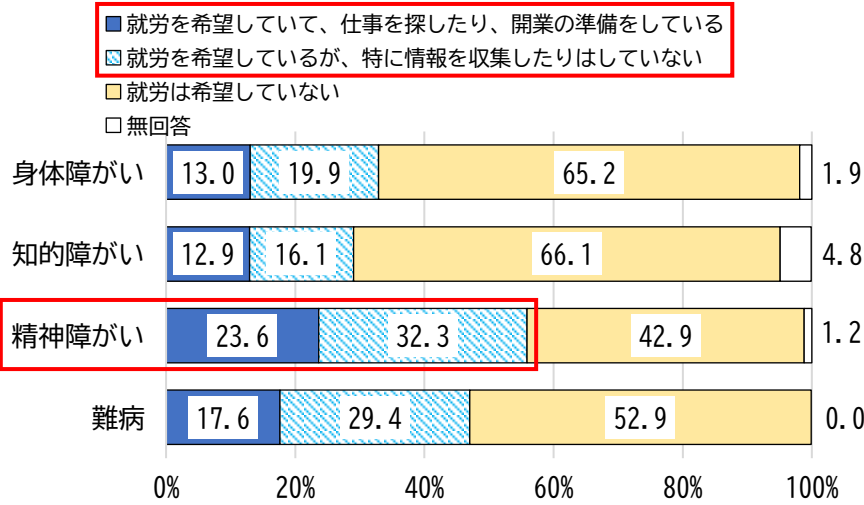
三鷹市障がい者地域自立支援協議会就労支援部会の取組として、短時間就労を目的に企業と福祉事業所を結びつける取組を行いました。

引き続き企業等へ積極的に働きかけ、関係づくりを進めていきます。

関連データ

障がい者調査（障がい者等の生活と福祉実態調査）

仕事につくことを希望しているか（現在働いていない方）



- 障がい者調査では、特に精神障がいの場合に、就労を希望する割合が高い。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、障がいのある人がその人に合った働き方で働けるよう、多様な働き方を推進してきました。本人への支援だけでなく、企業側への働きかけ、ネットワークの構築等も行っています。
- 引き続き、就労移行等のサービス提供量の実績値を鑑み、就労を希望する人を支援します。
- 特に、精神障がいの場合の就労の推進について、重点的に取り組みます。

三鷹市の取組と実績（抜粋）

地域の複数の機関相互連携による家族等の不安の軽減

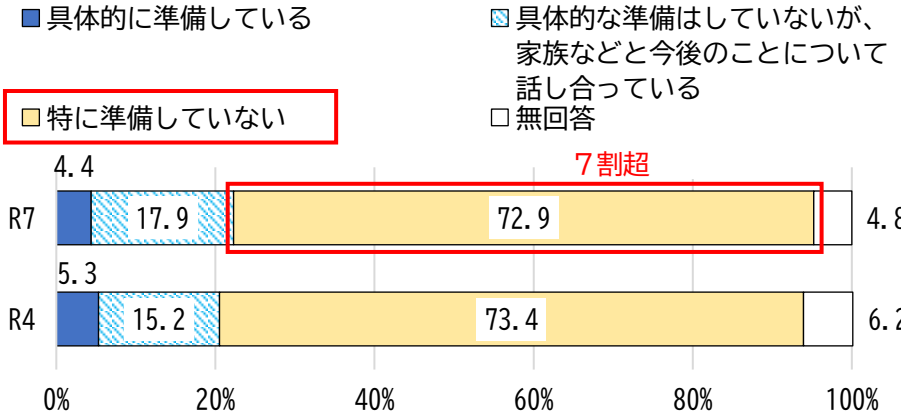
本人の障がいの重度化・高齢化を見据え、基幹相談支援センターや市内の相談支援事業所、一時保護施設等、地域の複数の機関が相互に連携して支援し家族等の不安の軽減を図ります。地域生活支援拠点連絡会を中心に、各事業所で連携して本人・家族等に対するきめ細やかな支援を実施しました。

各相談者により負担や不安が異なりますが、各事業所で丁寧に関わることで、連絡会で共有し検討を重ねることを通じて、相談者にあった支援体制を構築していきます。

関連データ

障がい者調査（障がい者等の生活と福祉実態調査）

将来、主に介助・援助している人（家族など）が先に亡くなったり、高齢になって介助が難しくなったりした時に備えて、何か準備をしているか



- 将来、主に介助・援助している人が亡くなったり介助が難しくなったりしたときに備えていない割合は72.9%で、前回調査（73.4%）からほぼ変わっていない。

課題に対する振り返りと今後の対応方針

- 市は、地域の複数の機関と相互に連携することで、本人の障がいの重度化や高齢化に伴った家族支援を行ってきました。
- 障がい者調査によると、「親亡き後」の生活等に備えていない割合は、7割を超えており、備えの必要性の周知等が必要と考えられます。
- 引き続き、関係機関との連携により「親亡き後」の生活や「8050問題」に関する不安の軽減を図るとともに、早期に備えられるよう情報提供等の取組を拡充します。